

„Jauchzet dem Herrn alle Welt“

詩篇 第100篇「全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ」

*Jauchzet dem Herren alle Welt,
dient dem Herren mit Freuden.
Kommt vor sein Angesicht mit Frohlocken.
Erkennt,
daß der Herr Gott ist,
er hat uns gemacht und nicht wir selbst
zu seinem Volk und zu Schafen seiner Weide.
Gehet zu seinen Toren ein,
mit Danken,
zu seinen Vorhöfen mit Loben.
Danket ihm,
lobet seinen Namen.
Denn der Herr ist
freundlich und seine Gnade währet ewig
und seine Wahrheit für und für.*

(Doxologie Op.69-2のみ)

*Ehre sei dem Vater
und dem Sohn und auch dem heiligen Geiste,
wie es war im Anfang,
jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit.
Amen.*

全地よ、主に向かって歓呼せよ、
喜びをもって主に仕えよ。
讚美しながら主の御前に来たれ。
主こそ神であることを認識せよ。
私達を造られたものは主であり、
私達自身ではない。
私達は主の民であり、
その牧の羊である。
感謝をもってその門に入り、
ほめ讃えながらその大庭に入れ。
主に感謝しそのみ名を讃えよ。
主は恵み深くその恩寵は永遠に変わらない。
神の真理はいつまでも続く。

(頌栄・栄唱)

栄光は父と子と聖霊に。
初めのように今もいつも世々に。
アーメン。

Mendelssohnは同じ詩篇 100 番のテキストで2曲作曲している。作品のスタイルは大きく分けて2つのタイプに分類される。両作品を比較し、その魅力を探ってみたい。

■ 和声 (Homophonie) 的な „Jauchzet dem Herrn“ WoO 28 C-Dur ■



ハーモニー音楽の特徴は色彩にある。プログラム第二部の最初に演奏する曲は、冒頭全てのパートが同時進行で輝かしい感動に充ちたハーモニーを歌い上げる。全声部が高音域に集まっているので明るく透明な音色である。

一方 „Erkennt, daß der Herr Gott ist“ (主が神であることを認識せよ)からは、低い音域のハーモニーで厳かで瞑想的な色合いを醸し出し、音域が上昇する度に輝きが増す。また

他の部分では男女の声質により音色の変化を感じることが出来る。例えば、„Gehet zu seine Toren ein“ (神への扉に向かって歩もう)は男声合唱がまず歌う。この高い音域を静かに歌うと男声の声は非常に暖かくまろやかになる。その後すぐ „mit Danken“ (感謝をこめて)で、優しく愛情のこもったハーモニーで女声合唱が応える。

MENDELSSOHN

= 旋律 (Polyphonie) 的な „Jauchzet dem Herrn“ op.69-2 A-Dur =



一方こちらの作品はポリフォニー (Polyphonie) 的である。その音楽の特徴は各パートの独立性と流動性にある。ハーモニー音楽の様な縦の同時性よりも、文章の流れを各パートが生き生きと発展させる。音楽が語りのフレーズに生命力を与えている。テキスト (歌詞) が、各パートの音楽の方向性と相まって展開

して行き、その中で大切な言葉は各々のやりかたで強調して行く。例えば „Herrn” (主) や „Freude” (喜び) などは音を長くのばしたり、メリスマ (音節を細かいリズムで歌う) 的な方法で浮かび上がらせている。

“Richte mich, Gott” op.73-2

神よ、私を裁き



Richte mich, Gott, und führe meine Sache wider das unheilige Volk und errette mich von den falschen und bösen Leuten.

Denn du bist der Gott meine Stärke; warum verstößest du mich? Warum lässest du mich so traurig gehen, wenn mich mein Feind drängt?

Sende dein Licht und deine Wahrheit, daß sie mich leiten und bringen zu deinem heiligen Berg und zu deiner Wohnung, daß ich hineingehe zum Altar Gottes, zu dem Gott, der meine Freude und Wonne ist, und dir, Gott, auf der Harfe danke, mein Gott.

Was betrübst du dich, meine Seele, und bist so unruhig in mir? Harre auf Gott! denn ich werde ihm noch danken, daß er meines Angesichts Hilfe und mein Gott ist.

冒頭で男声がユニゾン (同音程) で強く問い掛けている。それに対して女声が少し不安げなハーモニーで懇願している。„Sende dein Licht” (光を送りたまえ) からは、ソリストの音楽ではなしえない合唱ならではのハーモニーの魅力が味わえる。神の恩寵をしめす光が輝き渡る。Harre auf Gott! (神を待ち望め!) の所も、ハーモニーがもつ時間の永遠性と空間の無限性で、私達の魂に神の存在を予感させる。

神よ私を裁き、私の訴えを不信心な民衆に向かって主張し、私を不正な邪悪な人々から救って下さい。

あなたは私の強い支えとなる方、なぜ私を追放するのですか?

私が敵に虐げられた時、なぜ私をみじめに去らせようとするのですか?

あなたの光と真理を私に送って下さい。

そしてそれらが私を導き、あなたがいらっしゃる聖なる山やお住まいに到達させて下さい。

神の祭壇に向かい進むことは私の喜びであり至福でもあります。

神よ。豎琴であなたに感謝します。

私の魂よ、なぜ心を曇らせ、そんなに穏やかではないのですか?

神を待ち望みなさい!

なぜなら神は私の救いそのもので

私のための神であることに感謝したいので。

